

秘注
誹諧七部集

猿蓑之卷

五

5
4514
2



門 5
號 4514
卷 2

秘注詠詩七部集卷之五



春の山 川 水
大末

○其の如景也鳥の月カインの自福の之を得たり但テ字ノ三三テ人情ヲ

餘情ニシテ其風情ノ寂ミヤク可味

花の山 川 水

○其際三三時来テ其風情也前ヨク用テ水カ鳥ノ相ニ井ル風情ニルが如但風

而相對ニテ自守カ自然ノ場也但發句相對ニテテ自歌ノ如可心得

花の山 川 水

昭和十一年
一月二十三日
購求

○前よりカラミテ人情ヲ附タリ朝ツラヌト言ニ寒ニ身ヲイダサマリ但發見景色

ナラズ三人情カヨク發見人情ナラズ言色ガヨシセリ公難キ用有テ旅行サマリ

ちめちを懼す公後漢の乃 史邦

○公難キ用有トミテ主親ナド隠居山陰有テ糧害有ト聞シヨリ其行キ行解ナラカ

カハラズサマニサる遠コノおに旨の月 翁

○根ノ語リ大破ノ別仕更立洛ノ山寺ト可見日言月白ト可言

人もくもん名物め 秋

○執中ニテ氣好ガ詞高木柳野村子垣結タルヲ可思

秋なるそ 邦

○高直キ感テ言ナリ利木ナド言カキテ附ナリ但今ノ言ニ秋クテハヒキナリ

まけあふんあつきの足代名 秋

○其父ノ是發テ言ナリ心言ハ利木ノ附ナリ但今ノ言ニ高直ト言テハヒキナリ

何るもはまのふちハ 秋

○前より解トミテ具用ヲ附テ其親行法内慎ク体ヲ言但おれヲ通ク手股也

里々々えおれをえ午の具ぬ 秋

○前より比羅山横川ナドト下ナル体トミテ早浮世物音耳ニキル振ナリ

わつさくら去年のあまたの志 秋

○里ニミソクテ言山路ヲ奉止存有トミテ雨後ギニモテヒル座下為テ空暗ナリタル振ニシタルト

ハウルサキニヤリ

芙蓉のふしのさくらさくら 邦

シクタルトヨリ捨タル体ニ為テ古池ナドノ風情ヲ附タリ芙蓉ト蓮トナリ

あとのいんぎんをさけりすい長 翁

蓮見ノモテナシ出タル吸物ナリ

三つあまりのそとくろり 来

飯食應知テ迷惑心形ナリ先ト言字ヨリ見出テ道カエタルトナリ

けさも心盧同の男みちる 邦

其人テ盧同が男ト男也云カラニセ盧同ハ唐朝ノ人ナリ茶道ノ元祖ナリ

さつ本つもあお月の朧お 兆

其男カニタル本トテ居ナリト言キタルトナリ也朧夜ハ當田ホチノアミライトガラサニホシキ

丸ハ未心許サルトイフ心ニテ朧夜トナリ

若あうらもはあはる 兆

サニキタルト言キ賞美人心有ハ花ニ遊ナルト言キ水鏡ノ其庭會釋也朧夜ト言テリクモ察ナリ

十カラトハニシタリ

えいりあらししるおの腰立 来

小庭ノ身ハ赤給ニテ世事月ロスト名作ヲ附タリウノキケニテ整タル附ナリ

いちけり二日の物も管え 置 兆

○五集也義仲武義具面影トミテ其形ヤサニ出ス女面影ナリ

ありし地をくみぬるよ 邦

○五集也五五五相對ヤセリ是監白人倫人情お續タレテ意味分明也必竟四ノヲ

ニクニナ附也且是意門ノ通也會得セレハ送フコ可有

昔年より月朝ありて 未

○昔年語弊ニ前ノヲ較系キ其ノヤギヨキ心ノ次ヲ附テ討死ニ出ル時分也但ニ旁ノ曲當リ

お和ガタル年殿ナリ

あかしの燈ははるのあ 邦

○是又前ノヲ較系キタル徳及美ノ句ニテ是迄ラセシクシキヲホトキタルナリ

あつた戸も若回春は夢をきそ 邦

○前ノヲ風雅ノ語有リ葉ノ戸ヤト置句ニヨカシヨ整テ前ノノ二章ノ文雅ナリ前ノ

タル誦語録ナリ

布子らあきり 邦

○其ノミテ論ナリ

押なれをばをいふあり 邦

○前ノヲ新案ノ出ヌナドニテロニ記情ヲ放人サマヲ附タリ

ちりりのさしとあまら 未

○群集ノ前ノヲ大寺ノ鐘鐺見物トナシ其車漕洲タルモヤウ附タリ

五ノ 橋 歎 津 づ ち ち の 子 也

○鐘鐺ノ場ハ里離ニテ枝村近キアタリト爲テ歎造ル上ヨリ

六ノ 折 柳 の ち ち ち ち 木 子 子 所 也

○此ノ古葉ノ文ハ枝村ノマカラ花ニ對シテ開立テ語白ナリ

七ノ 市 中 多 事 事 の 自 己 夢 の 月

○自然ノ力ニシテ具ニサ位高ク蕉門ノ血脉統々ノ吟也可味

八ノ 市 中 多 事 事 の 自 己 夢 の 月

○自然ノ力ニシテ具ニサ位高ク蕉門ノ血脉統々ノ吟也可味

九ノ 市 中 多 事 事 の 自 己 夢 の 月

十ノ 暑 者 一 人 一 人 の 心 事 一 冊

○發句ノ餘暗ノ時信ヲ整正猶門トト言ニ涼井ル体アリ元來門ト下有言菊田トト三ノ

詞 我 脇 三 非 不 門 二 又 聲 上 直 三 至 七 九 一 一 言 放 三 脇 一 言 能 三 可 味

十一ノ 二 亦 多 事 一 雨 一 果 一 一 後 也 一 去 來

○脇ハ辭ハ爲テ其目者キ用ヨリ但市中ヨ田野ヲ移シタ但門トト言出テトトキナリ

十二ノ 仄 一

○農家ノ閑ニキ笛ヲラテクト急ク作ニ白ハセリ

十三ノ 山 崎 之 根 也 石 知 人 不 自 也 也 也 也

○先思更ニチキ山國ノ傳キ言リ

只と玉をりしにそは 宿名 来

の其村ノノサマニテト柏子ト不自由ナル里ノ榮也

羞恥トハ 蛇こつこのる夕まらき 兆

の貨物ヲ羞ケル者 臆病者ヲ風情ヨカシタリ言リ

山路のそりとり には竹や増え 公卿

の其集ニテ女風情ヲ瘳シタリ

そらんの發芽、花の 蒼む時 来

の行燈子ヲケスト言ヨリ無常觀ヲシテ蒼曇時ト其道石ノ初ニテ言カラ落葉トシキナリ

能くらの七尾 舞るまの 恒るに 兆

道心者志しぬまをの 老をえて 兆

の其大ノ其年其浦ノ漢又ハ老人ヲ歎キ其ノ意ナリ

旅人入り 小御門乃 鑑 来

の奥ノ門参内ト為テ源氏流生ノ巻ニ門出志ハゆるまト言ニ榮タリ其巻ニ鑑ヲ

志しぬまをの 老をえて 兆

のナレハ源氏ノ君ヨシマイラセシト女子ドモノ立カヘリタル也

湯殿ハ 休の 笑の子 恒るに 兆

のワシ美ニク附来リタルヲ寂ニ為テ元変化ナリ

菫香の實をみれば、
来

○前白の結、愛を助タル附ナリ湯殿ミク流る白ひ

信、海をくちふ海との
兆

○前白の結、愛を助タル附ナリ湯殿ミク流る白ひ

狛公の孫と云を、
兆

○他、他ヲ迎テ僧ト接申ト對附トス但夕嵐三月哉無用月十日論ナリ

年、子なるの地子よるる
来

○狛公ハ氏ミ公彼道止世有サコト言リ地子、年月クナリ

馬、ちをよあつけた
兆

○イカサカノ地を、年貢、カサキ意味ヲ、流ノ地、アサセリ、

足、成る踏をよぶす、
兆

○其場ニテ、流ニテ、アサシ、キナリ、

長、美を、甲、
来

○踏ヨク、心ク、体有トシテ、カ持、

丁、
兆

○附意、句、意、明也、

戸、
兆

○前、夕、水、能、水、也、トシテ、水、富、タル、長、者、ノ、也、トシテ、附、タリ

らんきやうすのり海の色つゝ 来

○其場中律 秋知願 色々々言リ 二万一章トシテ賣ヤキイワカト言歎

息ヲカセタリ

とをくゝ子種を伴る月夜 北

○二万一章トシテ其地守親父等子任事ヲ附タリ但イワカト言テソノトクキナリ

あそびあそびひりねる、神様 好

○後附シテ世出ヲ振ヒ記シ今草鞋ヲ造ルノ月夜ホシニ名取ナリ

あそびあそびひりねる 好

○五巻ノ附也意不明也右五ノ中出サマクニテ其捌百ハカニ當通式ヲ可味

あそびあそびひりねるの合ぬ 来 北

○外流シノ用ヲ言達年植ノ蓋ノ名ヲ附ク見テ蓋物ノ名ニテ居所不諭

草庵ナリ遊々あそびあそび 好

○前ノ金貨解ヨリ翁ノ身止ヲ思ヒヤリヲ名ヲ為テ蓋ノ合不語ヨリ破ラキ也

あそびあそびひりねる 来

○預阿西行ノ庵トシテ附タリ△致ニ合来抄ニ年暗ニキル初ハ初房ノ笑聲ヲ知ルハト

附タリ翁白前ヲ西行能因ナドノ境裏トシルガヨシレドスガニ西行ノ附ニ年ワナリニ

唯面影ヲ可附トテカリ且ヒスイカサマ西行能因ノ面影ナルベシトナリ

あそびあそびひりねる 北

○歌集三六戀ノ部ヲ達テ別ル戀心不達別戀經年戀待戀後朝ナドサレク有バ

具テキ附ナリ

浮世の星多しふ小町なり

○案集二万一意色ハ西ニ世ニ短所也後言其少用ノ附ナレシニ百抄景雪ノ少好ト

案ニタリトイフ説モアリ

何故に所さるるも後を

○前ノヨリ果人ハ所ガ噂ヲ言トミテムベ物アルマイク体ナリ

心あまるとかりとるえ後を

○左ニ跡ヲ飯ヲ附テ其残り井ル人涙クミタルミタリ

昔より風遠きを花の

○御留守語ヨリ物輝ロラス意ヨリ花法ニ風遠スルト相應ノ物ヲ取合タリ

さあおぬえとの

○長閑ノ意ヲ表シテカラ風遠スルニ動スノ語ハクキ入

あけ桶の

○世發句ノ体仄け桶ノ場更ニ下ヤミガリト言ニ其ノ叙キ体言語速難思ヲ舊門ノ

叙ト可謂

油うすしそ七月孫さきし女 為

○前乃ノワヒキ作ヲミテ孤獨ノ趣有ハセテ雨ヤミケリト云ニ霜雪寐有也但油ヤスリ

テト油四ノテナリタリヨ言此語ノ翁故郷并但勢ノ詞ナリ

新冬浦ならしちる月新女 野水

○前乃ヲ家守ト為テ移徙前乃也但夜分ノ斟ヨリ後附ノ乃一解ト為タリ

夢へそしきし十の杯 公来

○前乃ノ語路ヨリ冬集ニテ乃一章トニ新宅據舞ノ益シタリ但浦ヤラタ嬉ハ白ナリ

千代経屋きおとさく子りしを 為

○數杯ヨリ子孫成トシ思ヒコセ有テ年賀ヨリ日スルト意ヲ子代(キ物)ヤサクト言リ

冬雪の香なりたしら雪ぬる 兆

○時耳トモ言ヒ三鳥集上ニ對シ雪ハ子ノ身ト移リトモ可言但鳥音ニイカニシテ

夕ニ雪津ト言ハセ

雪出しを眩よ練る春の駒 未

○冬ラ雪ヲケニキニ返リタル体有テ北風胡馬嘶ト言駒每向出タリ但春駒ノミセ

トトテ馬ヲサカル所也

病の那よさくゆりそのかさる 水

○乃ヨカテミタル所也前乃ヲ先陣ノ後魁ナリトシテ具夜明ノ景色也摩耶ノ根津

ノ國ニテ大物浦ヲ眼下ニミルナリ



夕飯千あますこ喰、風草心 北

朝、俣附タル夕食轉シテマノ高根風ヲ附タリ但マノ林底濱邊ニテウ也

軽のり所、こもるを、水 北

農家子有ヨリ附アリ但風薫ニカキト、白ナリ

あまひま、志を、水

後附方一章也忘レタルエカキト言意ナリ

正らむ、水

美集ニテ亦有之合ニ方一章也但前ノ物思ヲ本集ヨリ如ク愛久母トシテ

者ニ下リ升ル俣ニテ當方、附タリ



今、水

女意ヲ男ニ轉シテ、龍愛ニホコリタル家老ト附タリ金銀、其ノ仇名ニシテ

カニ又就鳥ト言ヒトシ

あつ、水

金銀、傳ニテ偏屈親父、熱風呂好ニ為タリ

所、水

逆所居風、同モライアリ、止ニ其ノ也長湯好、徒乃、秋ト言字ニカセ、雨ニト

音更行ト云キナリ

水

二万章ノ迹也所並マラ成テサヒキヲニニ至テ一軒ノ明屋鋪トシテ其草花ニルヲ言

未_レ知_ル者_ハ未_レ知_ルカハ西念_ハ心_ノ衣_ハ心_ノ 未_レ知

盛者_ハ表_ニ満_キカノハ換_リ行_ハ浮_セ中_ヲ觀_想ノ一_ノナリ

本_ノり_ノ 確_キふ_ハま_ハの_ハり_ハ 北

二万章也クガキ亮杖也衣_ニ兼_テ廣_クル亮杖_ハ移_リ

ゆ_ハら_ハの_ハ新_ク修_ムハ 四十_ハ 蓐_ハ 水

春暮_ニ鳥_ハ歸_ルハ更_ニ暮_行ト_言中_ハ雀_ハ初_老ト_キモ有_テコ_カ但_ホ曾_ハ山_陰ト_シ

ミタシク二万章ナリ 未

宗_ノ子_ハの_ハ心_ノを_ハこ_ハら_ハけ_ル 未

前_ノ白_ハ暮_春倚_{ヨリ}雪_モ解_{タリ}家_根コ_リク_リヲ_附タ_リ但_ニ万_章ニ_付テ_哉意味_論ナ_シ

冬_ノノ_ハの_ハあ_きト_ある_ハハ_ハ 北

榮_ハス_ハ解_テ其_用ヲ_附タ_リ

旅_ノの_ハ心_ノを_ハこ_ハら_ハけ_ル 未

前_ノノ_ハ枯_ニテ_ハシ_テサ_ヲ旅_宿ノ_サマ_ニ移_馳を_モニ_テ行_燈ノ_ニテ_更ニ_夜具_モア_ワカ_レベ_シ

す_ハら_ハの_ハ心_ノを_ハこ_ハら_ハけ_ル 未

有_明ト_言リ_執中_ニテ_清少_納言_ハ面_影ヲ_附タ_リ

何_ノの_ハ心_ノを_ハこ_ハら_ハけ_ル 水

二万章ノ附也冷_ニキ_ニ狼_トト_キテ_思上_草ト_比興_ナガ_ラ龍_騰名_ノ思_上草_ニシ_タリ

夕月お園の草根の夏原の

前句の實思に草ニ為テ其塙ヲ附タリ歌ニ毛尾花ガ許思草ト云ハ萱根ハキキ

人志きしあきしれあ 北

ウカラミルニ皆諸説匡ニセツカウク水ヤコソフニ所加備フ水ト言キテ書誤ノ

クハトエトナリ

嘘つもふ自傷のまきをあきむ 水

前句ニ故事來歴ヲ明ク脈有トシテ嘘ツキト言平話詞詠詔解ヲ言リ

又し大さの影をとりあす 来

の目勝スルノ言葉ヲ附タリ

堪りり田の青や影をみまはす 北

の物語遊や辨當ノ點トシテ其辨當ヲ用リ場ヲ言リ猶節ニイテキキ涼ニキ体也

かき水のやけはすけはせ ぬ

の其塙ノ景色ヲ整テテ方ヲ結ヒタリ

この空の影をみまはす 来

の聲ノ社人ノヤブ垣波ハスニダレ俣トシテ聲高クト付タリ

この空の影をみまはす 速 水

の雨舎ヲシテイルボテイトシテ晴雨無常迅速ニタトエタリ

晝成るた急路のふしのまきしよ ぬ

○折哉の財由ヨリ雨舎リ遍テ三辟言テ生類博ニ至リ夏夜子ヨリ此倉路爲迄悉ルキ

○今世三同赤子五夕去ス公之曰連歌式之倉路爲雜ヤハ此夕雜可言

ちうらんく 水子 倉の 銭くらむ 兆

○倉路爲也畫紙ノ解ニ古ク水ノ移ナリ

いづ 櫻の 腹ニ 水ノ 水

○蘭ノ細キ糸標ノ葉有テ花ノ坐ヲ櫻ニクルフハ洞問各ニ尋ニ洞曰櫻ニ換ルフ等閑ノ

夕ニテ子ヲスト宜キリ然レヨハ夕ノ依葉一集ニ葉ヲ櫻ニテ洞授合也夫テ腹ニ水ノ

まろろろ二月 曙の 水

○此兆ヨリ此化ヲ櫻ニ附テ世々トイモ有テ意野水ガ此奉夕ヲ爲テ花心ヨリ

人間白セリノ是陰見ノ法奇言但春色意言ナリ

いづ 銭ニ 列東武 行

梅の 子糸 鞠子の ちの け 翁

○政言は不及東道也サリヤ春色ヨカラント也列東置ユナリ

いづ ちの け 曙 乙 列

○長途ニ至前夕意味情不分明銭別ヲ謝スル心ニテ唯イサギヨク洞出徒ト意ニテ心ヨキトナシメ

いづ ちの け 田ノ 古 ちの け 珠 碩

○前夕ノ心ヨキ俣ヲ長閑ナル俣ニバリヨアミライテ農ラカク俣ニ釋ミタリ

あしき旅をとりてふりり 素男

○白雲持祖ニヤ愛泊ノ但下平次米ノ字ニテ白米ヲ洗テ白ニシテ粉トシ生クニ言ニテ

○布ヲ備テ次米次食ニ字共同意ノ正字也武列上ノ言ル粉ノ字ガゴニルテ外犬根

ヲロシト大只者タルヲ指目油ニテ者テ其ガゴトフニテ芒菜色包ニテ桐荷子備ル具冬也リ言

片豆ミテ止意ニテそのるの月 列

○次米ノ字ニ興ニケルヲ後ス前ニカクイタル体ナリ

一階の字ヲ多クあしきる一秋 為

○前ノノセニキ後ヲ商人宿トナドノ客ノ立行ニ跡ニソリトシル体ニ移ス

あやう新のあしきええせん 男

○大樽ニテ其ノヒツリトシル体ヲ生類ニ為リ客ノ立行名ヲ故キル鵜ト其時移ス

鵜の素伸の力あき風 碩

○鵜ヲ放ツ場ナカラ飼置タルモノヲ放ツバノゴレアルモノナレバカキトトヨリ

おんのかしきく 為

○カキトトヨリ轉ニテ西行ノ高野ノ言リニ岐ニ思ハシ海山ノ世々ノ好ヲ持テヨリ

あしきくらん西上ノ道世特歌也可味

田舎民のあしきく 列

○親ニヤホト頭追来テ呼バケシテ内藏頭カト呼タルハ裁ニヤト振向タル体ナリ

巾の尅れ真のく 碩

○前句ノ語詠ヲ人顔ノ合ヲ又トシテ陣ヨシキタル俾ナリ

古く 中る ねの おろ たり たり 男

○ニクノル附方ナリ曙ノケニキナリ

それの ねそ の おろ よき なり 別

○前句ヲ禪林ナドニシテ其境内ノモヤウヨ附タリ但靜トシテ秋モ移ナリ

そら へん へん なる 智月

○前句ノ間違タルヤラスナルヨシニ感勢ヲ振リ意ヲ取リテ賜ノ聲トナリ

懐中 とも と あら び ね の 月 元兆

○是モ又興ニシテ起情ノ解ナリ前句ノ喧嘩ノ中ニ其頭分出テ鎮ノタル聲ト為テ懐

○キヲアケムルト、大原神トシテナリ

汐 空ろ なる ね ね ね 別

○浦人ノ日知ヨシル聲トシテ其場ヲ附タリ

鏡の 柄り なる 志の 音 玄来

○是ニテ又ト言俾ニ考ル俾有レテ敵ヲ退来テ見ヌタル一騎馳共武者トミセタリ暮ハ

月トチ截アレト月ノ用ノ月ナリ

一 ぼ やう なる ちう じん かり なる 流 依兆

○門外ニ聖名供合ニテ傳ヒタリ但マキナラスノ語ニ供人ナレバカマシテ意アリ

春の けり 信り なる 冠 机 正秀

○跡ト言ヨリ仕巡テ帰ルト、トキナリ野原ヲ取果タル下部ノ用白ナリ

片屋まのくふ法のりり 来

○二方一辭也カミナリ

汗ぬくむ踏めさるゝの研の糸 半残

○下部ノ者ノ用ヲ附テシルシノ吟味ヨリ言半フ俵アリ

口のきせりしを籠り下 出芳

○手拭相履以戀トシテ其ハハ羅下ト定メルシキト言ヒモ、手拭ハシタリ

大膽よあひのきぬ恋を 残

○羅下ト言場ノ希ニ俵トシテ大膽者ノ忍ヒタル俵トナリ

身ハ浮我のき所あは 芳

○大下ト言語ヲ叶ハ戀トシタレトシテ二方一章ト附タリ

かかの帳あはる細二第 残

○前日ヲ更食洛シキル者トシテ草細スル者ヤウナリ言リ但帳カト草割ルハ早ナリ

柳りしきりん大年の夜 国風

○素人ノ細細相ト為テ年相ヨル俵ニシタリ

客のしんあは傳もひすの浦 猿錐

○棚下トモストハヤヒキ姿有バコニ左邊ノ人ト傳ヒテアヒニカナリ

むねくちをさるる肩衣 残

○其人ニテ住馴タレハ都ノ姿モクナリタル姿ヲ言

け者も要成くくる 破扇

風

○二君ニ任テホル浪人トシテ其用ヲ消タリハ其妻モ白ナリ

おる煙 秋をせそを 水月を

鐘

○前ハ昔ノ附ナルヲ姿換骨ヲ故進ナカラ月ニルフゼイアリ

吹雪の跡ハ 近江 桜花

芳

○前ハ月見古ラ唄キナル俣トシテ其跡鎮リ名振ヨ言リ

流ハ 少社ニ せん ちん

風

○前ハハ舞ニ情ヲ記シテ 嫉妬ハ心キ世居ノ俣ヨ言リコタシト 驚實ヲイフナリ

音

形取キ 終を 多し みる 是 盆

嵐 蘭

○夫婦浪人トミテ冷土師ハ子ニ成リタリトシタリ

くす ちん ちん 木ノ 別下 弦

史 邦

○其人ノ會釋ニテ下駄更ニ繪トシテ雪ノ竹ノ移也

ひと やさし ちん ー の 連ハ 空を ちん

野 水

○隠者ノ下駄トシテ風流ノ極ヲ言リ但白花ナレハ巻頭ハ 錢別トシヨリカクハ多ナリ

離の 神を 海を 春風

羽 紅

○花ノ噂ヨスル間ノ風情ヲ言リ但春涼ル神ト言ハ佐保姫トシテ涼ル春風トシタル

一般ナリ

Handwritten text in a cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

秘注誦諸七部集卷五終

Handwritten text in a cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

Handwritten text in a cursive script, likely bleed-through from the reverse side of the page.

